

「地域看護学定義に基づく 2040 リサーチアジェンダ 24」  
 「2040 リサーチアジェンダ 24 の達成にむけた戦略の柱」

1) 事業背景と目的

地域看護学の再定義(表1)に際して踏まえた2040年の日本の社会については、超少子高齢社会とともに人口減少社会とされ、その影響は、産業、経済、教育、社会保障、人々の価値観等、あらゆる側面で言及され、“ジャパンシンドローム”とも称されている。日本地域看護学会では、地域看護学の再定義(2019)に基づき地域看護学を一層発展させ、2040年の日本はもとより、世界の人々の健康と環境の変化を予測し、かつ適切に対応するため、重点的に取り組むべきリサーチアジェンダおよび同アジェンダの達成に向けた戦略を明確にする必要がある。

2) 事業成果

(1) 日本地域看護学会定義に基づく 2040 リサーチアジェンダ 24

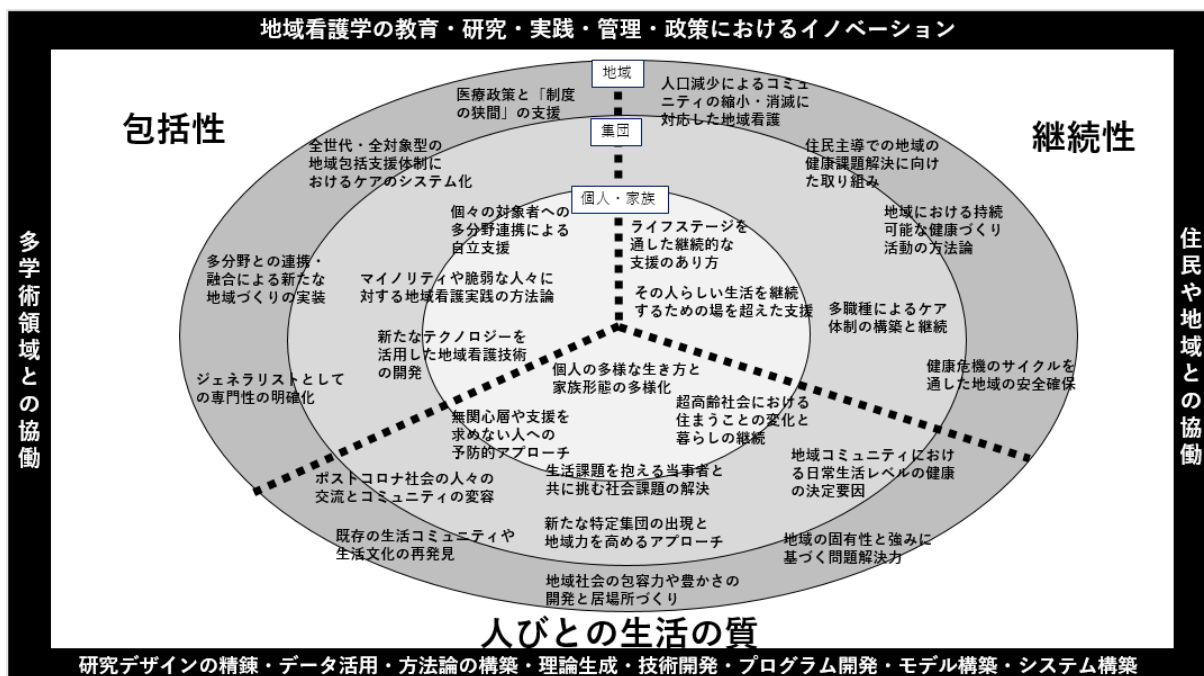


図1：日本地域看護学会定義に基づく 2040 リサーチアジェンダ 24

図1は、リサーチアジェンダ 24 と四辺から構成されている。リサーチアジェンダ 24 は、地域看護学の再定義(2019)に包含された、①人々の生活の質、②包括性、③継続性の観点から、重点的に取り組むべきリサーチアジェンダ 24 テーマを抽出し、地域看護学の対象である個人、家族、集団、地域を考慮し、配置したものである。なお、地域看護学の定義と①～③の観点については、今後も継続的に探究されることを前提にしている。上辺の「地域看護学の教育・研究・実践・管理・政策におけるイノベーション」は、本アジェンダが目指す目標であり、下辺の「研究デザインの精練・データ活用・方法論の構築・理論生成・技術開発・プログラム開発・モデル構築・システム構築」は、本アジェンダに用いる主な手法である。また地域看護学および地域看護実践が、専門・非専門を問わず、また領域や分野を越えて、さまざまな人々との連携や協働(パートナーシップ)を重視していることを踏まえ、主なパートナーとして、右辺に「住民や地域との協働」を、また左辺に「多学術領域との協働」を掲げた。

## (2) 2040 リサーチアジェンダ 24 の達成にむけた戦略の柱

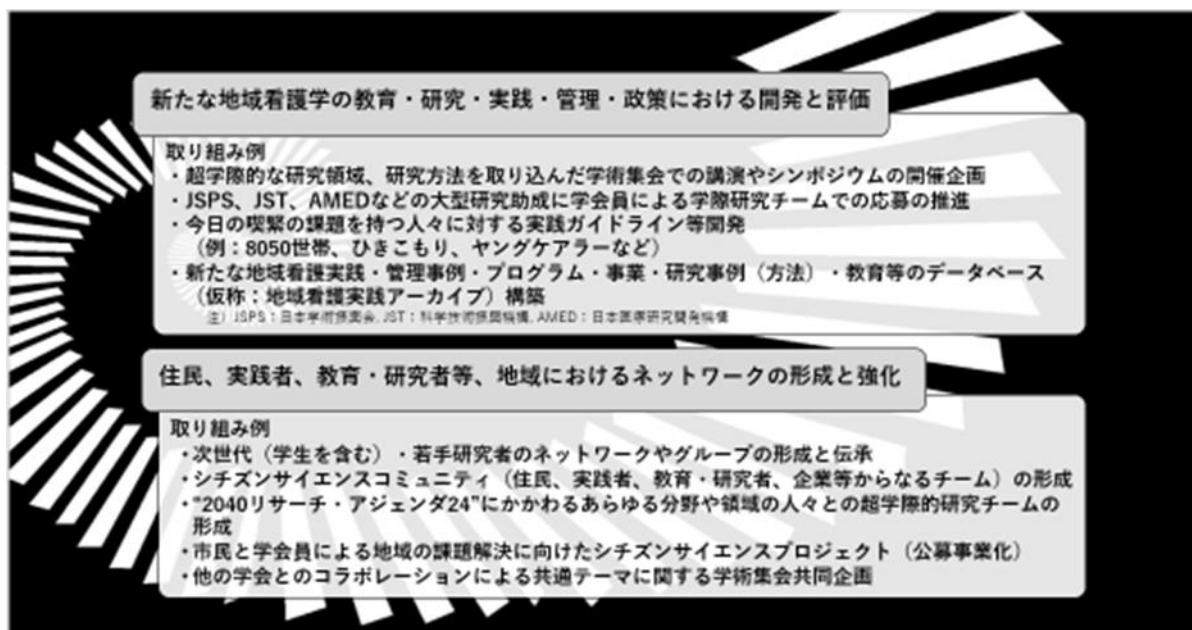


図2：2040 リサーチアジェンダ 24 の達成にむけた戦略の柱

図2は、「2040 リサーチアジェンダ 24」の達成に向けた戦略の二大柱を示したものである。一つの柱は、「新たな地域看護学の教育・研究・実践・管理・政策における開発と評価」であり、もう一つの柱は、「住民、実践者、教育・研究者等、地域におけるネットワークの形成と強化」である。また各柱のもとに、具体的に想定しうるさまざまな取り組みや事業の例も提示した。例えば、前者には、未だ十分な方策が確立していない喫緊の課題を有する地域の人々や今後出現する新たな対象集団に対する新たな地域看護学の開発と評価にかかる取り組み等を含め、後者には、2040のアジェンダを担う次世代の人材育成にかかる取り組み等を含めた。本図のデザインは、両戦略の柱が相互に関連し、循環しつつ、地域看護学の実装にむけて発展することをイメージしている。なお、ここでは示していないが、本戦略は、本学会が依拠すべき倫理上の基本原則と理念を定めた「日本地域看護学会倫理綱領」の遵守を前提にしたものであり、本学会の趣旨である人々の健康と福祉に寄与し、また広く社会に還元するよう一層努めるものである。

### 【参考】 表1：日本地域看護学会定義（2019）

一般社団法人日本地域看護学会では、「地域看護学」を保健師、助産師、看護師の看護職に共通して求められる知識や能力を培う、基盤となる学問として位置づけ、以下のように定義する。

- ・ 地域看護学は、人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求する学問である。
- ・ 地域看護は、人々の健康と安全を支援することによって、人々の生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与することを目的とする。
- ・ 地域看護学は、多様な場で生活する、様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究する実践科学である。